

**平成28年度第2回東京都地方独立行政法人評価委員会
高齢者医療・研究分科会議事録**

●日時 平成28年8月1日（月曜日）午後3時から午後3時30分

●場所 都庁第二本庁舎 31階 特別会議室24

●出席者 高久分科会長、猪口委員、河原委員、鈴木委員、南委員

●審議事項

1. 平成27年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター業務実績評価の決定について
2. 平成27年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター財務諸表に関する意見の決定について
3. 第三期中期目標の策定に向けた意見交換

●その他

今後のスケジュールについて

○高齢社会対策部施設計画担当課長 それでは、定刻より早いですが、ただいまから、平成28年度第2回東京都地方独立行政法人評価委員会高齢者医療・研究分科会を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。私は本分科会の事務局を務めます施設計画担当課長の諸星でございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

初めに、本日の出欠状況でございますが、全委員の方にご出席をいただいております。なお、南委員は所用のため4時30分に退席されます。本日の高齢者医療・研究分科会につきましては、附属機関等設置運営要綱第6に基づきまして公開となっております。また、議事録につきましても、後日、福祉保健局ホームページに公開いたします。

本日の配付資料の確認をさせていただきます。次第をおめぐりいただきますと、分科会の委員の名簿、座席表がございます。次に、資料1平成27年度業務実績報告書（案）、資料2平成27年度評定一覧（案）、資料3財務諸表の概要、資料4財務諸表、資料5第三期中期目標の策定に向けて、資料6今後のスケジュールについて、次に、参考資料としまして、委員会運営要綱、附属機関等設置運営要綱、27年度業務実績報告書、中期計画、中期目標を添付しております。資料の不足等、ありますでしょうか。

（「なし」の声あり）

○高齢社会対策部施設計画担当課長 ありがとうございます。それでは、ここからの

進行につきましては、高久分科会長にお願いいたします。

- 高久分科会長 本日は暑い中、また、お忙しいところを、お集まりいただきまして、ありがとうございました。

本日の審議事項は、平成27年度の事業業務実績の評価書の決定と、平成27年度財務諸表等に関する意見の決定、3番目に第三期中期目標の策定に向けた意見交換の3件であります。それでは、審議事項の1、業務実績評価の決定について、事務局から説明をよろしくをお願いいたします。

- 高齢社会対策部施設計画担当課長 ご説明いたします。7月15日の第1回の分科会でご審議いただきました評価書素案につきまして、分科会の委員の先生方からの御意見を伺うとともに、健康長寿医療センターにも意見の照会を行いました。

前回の分科会で、猪口委員から、フレイル外来の設置につきましては、項目7の安心かつ信頼できる質の高い医療の提供での評価になじまないのではないか、また、医療の質の定義が曖昧ではないかとの御意見を頂戴いたしました。年度計画におきましては、項目7に専門外来の充実を記載しておりますので、今回につきましては、本項目で評価することといたしますが、いただいた御意見を踏まえまして、第三期の中期目標の策定に向けて、項目立て等について整理することで、猪口委員と高久分科会長にご了承をいただいております。

その他の項目や全体評価につきましては、高久会長から素案のとおりで良いとの御意見をいただき、また、その他の委員の方からも特段の御意見はございませんでした。また、法人からも、特に意見はございませんでした。このため、本日お配りしております業務実績評価書（案）につきましては、前回の分科会でお配りしました、評価書素案と同様の内容となっております。また、評点一覧（案）についても、前回と同様で変更はございません。

業務実績評価に関する説明は、以上でございます。

- 高久分科会長 それでは、この評価の決定について、御質問、御意見おありでしょうか。猪口委員、それでよろしいですか。

- 猪口委員 はい。

- 高久分科会長 特にご意見がないということですので、平成27年度の健康長寿医療センターの業務実績評価書の案を決定いたします。

では、次の審議事項に入ります。平成27年度の財務諸表等に関する意見の決定について、これも事務局から説明をよろしくお願ひします。

- 高齢社会対策部施設計画担当課長 財務諸表等に関する意見及び質問のご提出をお願いしてありましたところ、鈴木委員よりご質問をいただきました。

- 高久分科会長 それでは、鈴木委員から、具体的に質問の内容について説明をよろしくお願ひします。

- 鈴木委員 財務諸表について、特段、指摘させていただくことはございませんが、

気になったことがあったので質問しました。

まず一つは、費用を大きく分けると変動費と固定費になりますが、固定費の割合が非常に大きい。今後の経営ということから考えると、固定費の割合によってセンターの業績が動いてくるのではないかということ、今後、固定費の管理について、どのような対応をお考えなのかということ。

二つ目は、流動資産が非常に増えているような気がいたしましたので、現金を含め、今後どのように運用されるのかということ。

三つ目は、センターの運営には税金が使われているので、医療と研究に要する費用について、費用対効果の判定のシステムをどのようにしようとしているのか。

全て今後の財務諸表に影響すると思われましたので、質問をさせていただきました。

○高久分科会長 それでは、それについて、事務局から説明をお願いします。

○高齢社会対策部施設計画担当課長 ご質問ありがとうございます。順番にご回答させていただきますと思います。資料4財務諸表をご覧ください。1枚おめくりいただきますと、貸借対照表、その次に損益計算書、また、26ページに医業費用の内訳等がございます。

まず、固定費は、人件費、委託費、設備関係費等の、売りに連動しない費用でございますが、固定費に占める割合が高いのは人件費でございます。人材の計画的な採用や育成、人材の適切な配置等により、適切な規模となるように、センターとしても努力をしておるところでございます。設備関係費や委託費につきましては、備品購入に当たっての費用対効果の精査や、委託におけるプロポーザル方式の積極的な導入を行うことにより、コスト削減に努めております。

また、変動費は、医薬品費や診療材料費等ですが、前回の分科会でも御説明しましたが、後発医薬品の採用促進や、SPD業務の運用の見直し等により、変動費の削減にも努めておるところでございます。また、センターで経営戦略会議というものを持ってしまして、高額医薬品の使用状況について診療科別に確認を行う等の取り組みを行っているところでございます。

続きまして、流動資産ですが、医業収益の増加により流動資産が増加しました。病院運営におきましては、高額医療機器の修繕等の緊急の支出があるため、常時、現金・預金を確保しておく必要があるという中で、平成27年度は業務運営に支障が生じない範囲で短期の定期預金への預け入れを行って、利息収入による収益を確保しました。

また、費用対効果につきましては、経営戦略会議や病院運営会議、また研究推進会議等において、業務全般についての検討を行い、改善に取り組んでいるところでございます。医療に関して言えば、自院と他院の状況を比較する等、様々な視点から分析を行い、病院の経営戦略づくりに反映をしているところでございます。また、研究については、内部評価委員会や外部評価委員会を設けておりまして、研究成果

の普及や社会への還元状況等を踏まえて、研究継続の妥当性について評価を行っているところでございます。

センターとしては、今後もこうした取り組みにより、業務運営の改善を図っていくと聞いております。説明は以上でございます。

○高久分科会長 今回の説明につきまして、何かありますでしょうか。

○鈴木委員 今回の内容で了解いたしました。1番目の固定費の管理については、やはり今、診療科ごとに変動費と固定費の計算をしながらやっておられますので、これをできるだけ精密化して、診療科ごとの利益というものはないのですが、業績の違いはあるので、更に、管理をお進めになられると良いかと思えます。

流動資産は都立病院も含めて、東京都の経営方針等もあるのかもしれないので、ここだけで議論する話ではないかもしれないので、そのような観点でも更に良好な運用をしていただければと思います。以上でございます。

○高久分科会長 どうもありがとうございます。他にどなたか、財務諸表全体について御意見、御質問はありますか。もしないようでしたら、平成27年度の財務諸表につきましては、特に御意見がないということで決定させていただきます。

では、次の審議事項に入ります。第三期中期目標の策定に向けた意見交換について、これも事務局から説明をよろしくをお願いします。

○高齢社会対策部施設計画担当課長 資料5をご覧くださいと思います。平成30年度から始まる第三期中期目標につきましては、平成29年度に分科会、評価委員会全体会において目標案をお示しし、意見聴取を行うことになっております。

それに先立ちまして事務局の目標案作成に当たり、委員の皆様御意見を頂戴したく、前回の分科会で第二期中期目標期間の評価について、評価のポイント等を説明させていただきましたが、概ね着実な業務の進捗状況と言えらると思っております。第二期における法人の取り組みや実施時期について、委員の皆様から、「この点については十分な成果を上げた」とか、「この点について不十分であり、今後の課題である」等、自由な御感想や御意見を頂戴できればと思います。

資料5の1枚目にお戻りいただきたいと思えます。現在の中期目標の項目立てに沿って記載をしておりますが、本日はこの順番にかかわらず、医療、研究、人材育成、業務運営、全体に関わる柱がございますので、第二期の実績を踏まえつつ、第三期に向けて、このような点を充実すべきだとか、または見直すべき等、御感想や御意見をお願いできればと思ひまして、本日、資料のほうを御用意させていただきました。よろしくお願ひいたします。

○高久分科会長 それでは、今事務局から説明がありましたが、資料5の第三期の中期目標の策定に向けて、御意見、御感想があればお伺ひしたいと思ひますが。これは大体、第二期を引き継いで、続けていくことになると思ひますが、何か御意見はおありでしょうか。どうぞ。

○河原委員 医療のところの三つ目のポツのところには地域連携がありますが、病院の立地からして、板橋区とか、その周辺の医療圏、立地している医療圏の医療機関との連携はよくわかるのですが、都の中核的なセンターですから、何か全都的な人材育成になるのかわかりませんが、全都的なかわりみたいなものを入れておいたほうがいいと思うんですね。例えば、人材育成のところ、地域の医療・介護を支える人材の育成とありますが、それを何か全都的な育成というか、研修とか育成の拠点みたいな形の表現がいいのかなど。

それから、研究の2番目で、高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究と書いていますけど、これを見れば、何か予防医学的な、公衆衛生的な研究をイメージするのですが、実際にテロメアとか、分子生物学的な研究とか、あるいはブレインバンクとかいう立派なものをお持ちですから、この文言だけでちょっと読めるのかなと思ったりしているわけですけど。そのあたりご検討いただければと思います。

○高久分科会長 何かうまい表現がありますかね。人材育成のところは「地域の」よりも、高齢者の医療・介護を支える人材の育成のほうが良いかもしれないですね。あとテロメアの研究等についての表現をどうするか。高齢者の研究成果の高齢者医療への活用という表現にすると、少し焦点が絞れますかね。他にどなたか。どうぞ。

○南委員 今、河原先生が言われたことと思想的には同じかもしれないですが、全国的に、東京の高齢化の問題は非常に特異で大変だと言われているので、東京都の高齢者医療の中核的な施設として、都に成果を還元するようなイメージを持っていただく方が良くはないかということ、私も申し上げたいと思います。

○高久分科会長 それでは、地域じゃなくて、東京都にいたしましょうか。地域だと、板橋だけになる。他にどなたか。

○鈴木委員 業務運営のところとその他のところですけど、ここに書いてあるのは、単に大項目を書いておられるだけなので、いろいろ中身に入ってくると思います。この評価はB、Bというのは悪いという意味ではなくて、これは平均だと思いますけども、これをさらにAに向けてということになると思います。

一部そういう表現も入っていたと思いますが、やはり目標管理というようなことについて、私どもが言っているのは業務運営とか、財務とか、この領域では、目標管理というような、財務の方針といいましょうか、運営の方針だとか、あるいは予算設定で、予算の積み上げについて、できるだけ詳細に精密に分析とか、あるいは決めていくというような予算設定の積み上げの精密さということを目指すことになると思います。

それから、これは従来ずっとお話をできて、そして、かなり改善されてきていると思いますけれども、さらに部門別とか、業務別、作業別のコスト管理を、税金を使用しているということで、さらに進めていただくということ。

それから、この最後の全体にかかわるところで、最近、企業でもそうだと思うのですが、学校では職員等のメンタルケアについて、色々な環境整備をしなければならぬということやっております、こちらでも多分職員の健康管理あるいは満足度との関連にもなってくると思いますので、そういう点も含んで運営を進められたらいいのではないかと思います。

○高久分科会長 どうもありがとうございました。猪口先生、何か御意見ありますか。

○猪口委員 意見としてまとまっていないんですが、医療のところに入るのか、業務運営に入るのかというところなんですけれども、地域医療構想、それから平成30年から保健医療計画が新たに変わります。

ここに書いてある内容というのは、健康長寿医療センターの独自の動きだけなんですけれども、今後のそういう動きからすると、地域全体で生活を守っていく、地域の方たちの生活を守る、健康を守る、そういった視点がどの病院にも求められる状況になってきているところなんですけれども、そのこのところの書きぶりを何かできないものかなとずっと眺めていました。

○高久分科会長 地域連携という表現だけでは不十分だと。

○猪口委員 地域連携は、自分のところが生き残る、それから、相手との仲においてはいいとか、そういう連携は幾らでもできるんですが、全体、地域社会の中に見渡した上で自分達がこういう位置取りにすることによって、世の中の歯車としてうまく回るんだというような視点というのは、この中の表現ではないと思われるんですね。

今後、どの病院も地域調整会議等で話し合いながら、自分たちの立ち位置を考えていかなきゃいけないんですが、その表現をどうしたものかなと思っているところです。

今後、どの病院も地域調整会議等で話し合いながら、自分たちの立ち位置を考えていかななくてはいけないのですが、その表現をどうしたものかなと思っているところです。

○高久分科会長 どうもありがとうございました。その表現はなかなか難しいですね。他によろしいでしょうか。どうぞ。

○河原委員 さっき分子生物学的な研究のことを言いましたが、資料1の29ページのところに、先進的な老化研究の展開という項目がありますが、それが当たると思うんですね。だから、それを横並びで書いていただければいいかなと思います。

○高久分科会長 研究の中にですね。それは是非、入れるようにいたしましょう。先進的な老化研究ということですね。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高久分科会長 それでは、本日の議論、皆さんの御意見を踏まえて、第三期の中期目標の策定をお願いしたいと思います。本日の審議事項は以上ですが、その他とし

て、今後のスケジュールについて事務局から説明をよろしく申し上げます。

○**高齢社会対策部施設計画担当課長** どうもありがとうございました。資料6今後のスケジュールをご覧ください。分科会終了後に御説明をさせていただきますが、8月30日午後2時から、第2回評価委員会全体会を開催する予定となっております。場所は第一庁舎42階の特別会議室Aです。分科会長から平成27年度の業務実績の評価結果を報告する予定となっております。その後、都議会に平成27年度の評価結果を報告し、同時にプレス発表します。

また、平成28年11月1日に高齢者医療・研究分科会の委員の改選がございます。その後、3月に新委員による第3回分科会を開催しまして、平成28年度の上半期の業務実績報告や平成29年度の年度計画の案についてご審議いただく予定となっております。スケジュールについては以上です。

委員の皆様は、平成28年10月末まででございます。現委員での分科会開催は今回が最後でございます。高久分科会長、河原委員、鈴木委員、南委員におかれましては、今期で任期満了ということになります。4期8年もの長きにわたりまして、貴重なご意見を賜り、まことにありがとうございました。事務局を代表しまして、施設調整担当部長の村田より一言ご挨拶させていただきたいと思っております。

○**高齢社会対策部施設調整担当部長** この10月31日で、高久分科会長、河原委員、鈴木委員、南委員におかれましては、4期8年のいわゆる制度上の任期満了を迎えるということでございます。この顔ぶれでの分科会は本日最後となりますことから、私からご挨拶をさせていただきます。

改めて、この分科会の歴史を調べてみましたところ、健康長寿医療センターが設立されたのは、平成21年4月でございますが、それを遡ること半年以上前、平成20年の第3回都議会定例会で、この分科会を設置するための条例が改正されまして、11月1日にこの高齢者医療・研究分科会が立ち上がりました。そして、翌年度からの第一期の中期目標、中期計画の審議等、非常に短期間に精力的な御議論をいただきまして、おかげさまをもちまして、平成21年4月に健康長寿医療センターは、地方独立行政法人としてのスタートを切ることができました。その後、第一期中期目標期間は4年間ございましたが、平成25年からの5年間の第二期の中期目標期間に向けましては、平成24年度にかなり時間をかけまして、第二期をどうすればいいのかということをご議論をいただいたところでございます。

おかげさまをもちまして、健康長寿医療センターは独法化して今年で8年を迎えまして、また新施設に移転してから3年を迎えることができました。8年という長き間に色々なことがあり、また、事務局も慣れないことが色々ございまして、多々ご迷惑をおかけしたと存じます。本日、第三期に向けてということで、先生方に御意見を頂戴しましたけれども、いただいた御意見をこの次の体制の分科会の先生方に引き継ぎまして、第三期の中期目標がより良いものとなるように努めて

まいりたいと存じます。

改めまして、本期をもちまして任期満了を迎えられる先生方、ありがとうございました。また、猪口委員におかれましては、もしご推薦いただけるようでしたら、また、来期以降もよろしくお願いをしたいと存じます。以上で、事務局からの挨拶とさせていただきます。

○高久分科会長 ただいま事務局のほうから説明がありましたように、この委員会は、本年の10月末までとなっています。4期8年と非常に長い間、評価委員会、実績評価の委員として皆さん方に大変ご尽力いただきまして、ありがとうございました。

私自身この東京都の健康長寿医療センターが、まだ老人医療センターと呼ばれたときから関わってきまして、一期、二期と、無事に評価を終えることができまして、これも委員の皆さん方のご尽力と、それから事務の方々の御努力のおかげと考えております。本日をもって、分科会長としての役割を終わらせていただきます。本当にどうもありがとうございました。